

# 優れた作品一堂に

## 沖縄タイムス芸術選賞秀作選抜展

### 美術ファン楽しませる

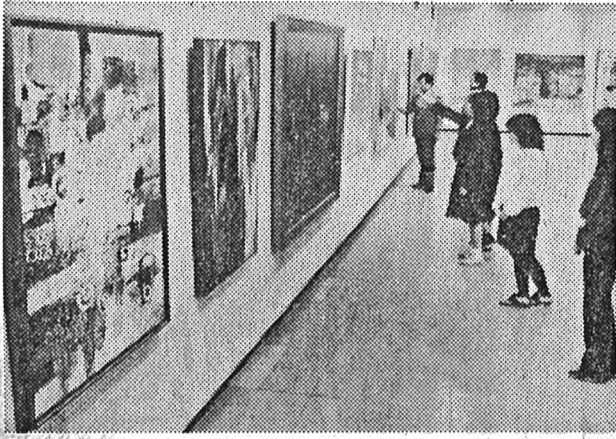
読者の口を

昨年、優れた創作活動を一堂に集めた「第十八回沖縄タイムス芸術選賞秀作選抜展」は、十三日からタイムス第二ホールで開かれていた。年の始めの「恒例」ともなった同展、県内で目下活躍中の作家の作品がまとめて見られるとあって美術ファン

を喜ばせている。前半の十五日までは「絵画・デザイン」部門。絵画では、沖展賞の眞西公子「島へ」をはじめ沖展入賞作や県展、個展などでファンを楽しませた画家二十三人、二十三点。デザインは沖展準会員賞の知念秀幸「試作ポスターB」。

フオーブ風の荒いタッチはベテランの渡慶次真由、紅型の朱と黄を基調にした安次富長昭、海外での活躍が目立った城間喜宏。沖縄に住んで三年、油絵による本格的な作品に取り組みする永原達郎、テンペラという県内ではみられない素材で描く永津被三の、本土

勢。ほかに翁長自修、真喜志勉、稲嶺成作、神山泰治、平良晃ら、個性豊かな作品が並び、訪れたファンも感動のため息。十六日からは「写真・書道・工芸」部門が開かれる。



昨年、話題作が展示された「タイムス秀作選抜展」